

令和8年度 日本小動物獣医学会（東北地区）

日本小動物獣医学会 学会長 佐 藤 れえ子

日本小動物獣医学会東北地区 学会長 岡 野 昇 三

令和8年9月11日(金) 第2会場 3階 アプローチ小

開 会	9 : 00
地区学会長挨拶	9 : 00
学 会 長 挨 拶	9 : 05
褒 章(奨励賞)	9 : 10
講 演(午 前)	9 : 20～11 : 50
ランチョンセミナー	12 : 00～13 : 00
講 演(午 後)	13 : 10～15 : 20
閉 会	15 : 20

〈講演・質疑討論要領〉

1. 講演時間は8分、質疑討論は2分以内とし、時間は厳守してください。
2. 演者の方は、発表開始の10分前までに次演者席へご着席ください。
3. 質疑の際は、必ず氏名および所属機関を述べたうえでご発言ください。
4. 質疑討論の進行は座長に一任されておりますので、指示に従ってください。

ランチョンセミナー

演 題 迷わない犬アトピー性皮膚炎治療：“10年通院”を実現する工夫とは？

講 師 サーカス動物病院 主任皮膚科医、株式会社Vet Derm Tokyo 代表取締役
アジア獣医皮膚科専門医、アジア獣医皮膚科学会 会長、

伊従 慶太（イヨリ ケイタ、Keita IYORI）先生

協 賛 ゾエティス・ジャパン株式会社

講師プロフィール(略歴)

2008年 麻布大学獣医学部獣医学科卒業
2011年 岐阜大学連合獣医学研究科博士課程修了
同年 ドイツミュンヘン大学皮膚科
同年 スウェーデン農業科学大学 皮膚科
2012年 東京農工大学動物医療センター皮膚科
2014年 アジア獣医皮膚科専門医取得
2022年～
現在まで アジア獣医皮膚科学会会長

講演要旨

犬アトピー性皮膚炎（CAD ; Canine Atopic Dermatitis）は慢性・再燃性の疾患であり、生涯にわたる長期管理が不可欠である。しかし臨床現場では、飼い主の治療負担、薬物療法の継続への不安から通院が途絶えるケースが少なくない。本講演では、「10年にわたってCADの通院を実現する」という視点から、CADの長期治療における実践的なポイントを紹介する。

CADの長期管理を成立させるには、正しい治療戦略とクライアントエデュケーションの両軸が重要である。CADは薬物療法で症状が落ち着いても皮膚の潜在的炎症が持続しており、再燃を繰り返す傾向がある。治療をしているにも関わらず再燃することが「失敗体験」となり、飼い主の離脱につながる悪循環を防ぐためには、初期治療から維持期の治療を見据えた治療設計が求められる。維持期中の治療戦略としては、寛解を保ち再燃を防ぐ「プロアクティブ療法」が鍵を握る。プロアクティブ療法においては、CADの病態理解、各薬物療法の効果と安全性、投薬コンプライアンスとご家族負担の要素を鑑み、持続可能な治療を選択する必要がある。

本講演ではこれらの観点から、演者が実践するCADの治療戦略について解説する。

令和8年度 日本小動物獣医学会（東北地区）プログラム

座長：澤田浩気（ラビッツ動物病院）

(9 : 20～9 : 30)

1. 当院におけるカリシ、ヘルペスおよびパルボウイルスに対する猫の抗体保有状況について

○竹原律郎、榊枝 陽、山口優稀、佐藤来未、柳瀬 栞、竹原由加里

ふれあい動物病院・青森県

(9 : 30～9 : 40)

2. 猫伝染性腹膜炎の再発に対してモルヌピラビルを用いて治療した1例

○東保吉乃助、栗田晟那、佐藤龍太郎、本間啓太、栗田 徹

発表者所属：天童動物病院・山形県

(9 : 40～9 : 50)

3. 汎血球減少症を示した猫免疫不全ウイルス（FIV）感染猫2例に対する多剤併用療法（cART）

○井上塔子¹⁾、田島一樹¹⁾、杉内美咲¹⁾、島岡千晶²⁾、吉川武志¹⁾、藤 将大¹⁾、大高裕也¹⁾、金井一享¹⁾

1) 北里大・小動物第2内科、2) 北里大・附属動物病院

座長：中田朋孝（ぽらべあ動物病院）

(9 : 50～10 : 00)

4. 胸腔鏡下Modified en blockおよび後腹膜鏡下乳び槽切開を実施した特発性乳び胸の犬の2例

○鈴木宏隆¹⁾、入屋咲葉子¹⁾、藤原玲奈²⁾、船橋 薫³⁾ 長濱正太郎⁴⁾、朴 永泰⁵⁾

1) 手形山すずき動物病院・秋田県、2) 岩手大学動物病院、

3) かおる動物病院・秋田県、4) JAVA、

5) 自由が丘動物医療センター・東京都

(10 : 00～10 : 10)

5. 特発性乳び胸の犬における心膜切除術前後での心エコー指標変化

○我妻蒼太¹⁾、森田智也¹⁾、星野有希²⁾、鈴木宏隆³⁾、小林沙織¹⁾、宮本 良¹⁾、藤原玲奈¹⁾

1) 岩大・小動物内科、2) 岩大・小動物外科、3) 手形山すずき動物病院・秋田県

座長：竹原律郎（ふれあい動物病院）

(10 : 10～10 : 20)

6. トリロスタンが奏功したアロペシアXのトイ・プードルの一症例

○栗田晟那¹⁾、東保吉乃助¹⁾、佐藤龍太郎¹⁾、本間啓太¹⁾、関口麻衣子²⁾、栗田 徹¹⁾

1) 天童動物病院・山形県、2) アイデックス・ラボラトリーズ株式会社

(10 : 20～10 : 30)

7. 免疫抑制療法中に皮膚マラコプラキアを発症・治療したイヌの1例

○藤 将大¹⁾、石黒佑紀²⁾、岩本拓也³⁾、松田一哉²⁾、金井一享¹⁾

1) 北里大大学院・小動物第2内科、2) 酪農大・獣医病理、

3) オリーブ動物病院・福岡県

..... 休 憩 10 : 30～10 : 50

座長：布川 寧（北の杜動物病院）

(10 : 50～11 : 00)

8. 血糖コントロール不良の背景に膵外分泌不全症の併発が認められた犬の1例

○宍戸 恵

須賀川動物病院・福島県

(11 : 00～11 : 10)

9. 犬糖尿病性白内障に対する白内障手術におけるフラッシュ型持続血糖測定器を用いた周術期血糖管理の有用性

○山下洋平^{1, 2)}、杉内美咲²⁾、大高裕也²⁾、田島一樹²⁾、金井一享²⁾

1) エビス動物病院・仙台市、2) 北里大・小動物第2内科学研究室

(11 : 10～11 : 20)

10. 重度の慢性表在性角膜炎に対して点眼療法のみで良好な経過を得た犬の一例

○伊藤優花¹⁾、田島一樹¹⁾、杉内美咲¹⁾、吉川武志¹⁾、藤 将大¹⁾、大高裕也¹⁾、
金井一享¹⁾

1) 北里大・小動物第2内科

座長：星野有希（岩手大学獣医学部）

(11 : 20～11 : 30)

11. 腸間膜に単独発生した好酸球性硬化性繊維増殖症猫の1例

○佐々木恒弥、伊藤 遥、佐藤祐紀子、吉田雄一朗、佐々木一弥

いわて総合動物病院・岩手県

(11 : 30~11 : 40)

12. 腹腔内に膜様構造物と大網の低形成が認められた犬3例

○佐々木杏奈、丹野備貴、齋藤 惇、池田五月、泉谷宗蔵、牛尾祥彦

アセンス動物病院・仙台市

(11 : 40~11 : 50)

13. 犬の骨盤腔内巨大腫瘍の1症例

○東保吉乃助¹⁾、栗田晟那¹⁾、佐藤龍太郎¹⁾、本間啓太¹⁾、寺井和幸²⁾、栗田 徹¹⁾

1) 天童動物病院・山形県、2) 浜松どうぶつ医療センター・静岡県

..... 昼 休 み 11 : 50~13 : 10

(12 : 00~13 : 00)

■ ランチョンセミナー ■

テーマ : 「迷わない犬アトピー性皮膚炎治療 : “10年通院” を実現する工夫とは ? 」

講 師 : 伊従慶太 先生 (サーカス動物病院、株式会社 Vet Derm Tokyo)

提 供 : ゾエティス・ジャパン株式会社

座長 : 木村 理 (すずかわ犬猫病院)

(13 : 10~13 : 20)

14. ステロイドの長期使用により肺の石灰化と肺高血圧症が合併した犬の1症例

○土橋享介¹⁾、田口大介^{1, 2)}、信貴智子¹⁾、國久 要²⁾、町田 登³⁾

1) グリーン動物病院・岩手県、2) グリーン動物病院・青森県 3) 東京農工大学

(13 : 20~13 : 30)

15. 重度肺動脈弁狭窄症の幼若犬に対し、開胸下経右室および経頸静脈バルーン肺動脈弁形成術を段階的に実施した1例

○信貴智子¹⁾、田口大介^{1, 2)}、土橋京介¹⁾、國久 要²⁾

1) グリーン動物病院・岩手県、2) グリーン動物病院・青森県

(13 : 30~13 : 40)

16. 皮膚石灰沈着症に伴う高カルシウム血症治療中に大動脈血栓症を発症した犬の1例

○新島 亮¹⁾、石野寛和²⁾、大高裕也³⁾、柿崎竹彦⁴⁾

1) 北里大・附属動物病院、2) 北里大・小動物第1外科、

3) 北里大・小動物第2内科、4) 北里大・獣医放射線科

座長：岡野昇三（北里大学獣医学部）

(13 : 40～13 : 50)

17. 血管造影CT検査が診断および治療方針の決定に有用であった肝内門脈体循環シャントの猫の1例

○辰己友翼、小松 亮、小松奈津貴、佐藤泰紀、坂 由希、白石 圭、矢谷仁人、田中沙季

あきたこまつ動物病院・秋田県

(13 : 50～14 : 00)

18. 犬の麻酔前検査としての心拍変動係数の有用性

○本間啓太、東保吉乃助、栗田晟那、佐藤龍太郎、栗田 徹

天童動物病院・山形県

(14 : 00～14 : 10)

19. 診断に超音波検査が有用であった浅趾屈筋腱外方脱臼の犬の1例

○内田貴子¹⁾、天野まど香^{1, 2)}、牛尾祥彦¹⁾

1) アセンズ動物病院・仙台市、

2) 東京大学附属動物医療センター 整形外科・神経外科

..... 休 憩 14 : 10～14 : 30

座長：小松 亮（あきたこまつ動物病院）

(14 : 30～14 : 40)

20. 喉頭腫瘍および喉頭虚脱に対して永久気管切開術を実施した犬の一例

○中野 夢¹⁾、近藤 慧¹⁾、西澤雅人¹⁾、戸梶允貴¹⁾、武内直也¹⁾、鳥巢至道²⁾、藤田道郎³⁾

1) ウイル動物病院グループ・宮城県、2) 酪農大、3) 日獣大

(14 : 40～14 : 50)

21. 単純閉鎖が困難であった犬の大腿ヘルニアに対しポリプロピレンメッシュを用いて整復した一例

○新屋大介¹⁾、南雲隆弘¹⁾、中田浩平²⁾、星野有希³⁾

1) 岩大・伴侶動物機能再建外科、2) 岩大・小動物外科、

3) 岩大・附属動物病院

（14：50～15：00）

22. 探索困難であった腹腔内潜在精巣の腫瘍化と転移を認めた猫の一例

○渡部 祐¹⁾、渡部さゆり¹⁾、藤原玲奈²⁾

1) わたなべ動物病院・宮城県、2) 岩大・附属動物病院

（15：00～15：10）

23. 胸腺腫摘出後に後天性重症筋無力症の併発が判明した猫の1例

○田中沙季、小松 亮、小松奈津貴、佐藤泰紀、坂 由希、白石 圭、矢谷仁人、
辰己友翼

あきたこまつ動物病院・秋田県

（15：10～15：20）

24. 若齢犬の頭蓋骨に認められた多小葉性骨腫瘍の1例

○佐藤龍也

エスティー動物病院・福島県